

第 1 6 回宮城県産業振興審議会

商工業部会

日 時	令和 7 年 1 月 2 8 日（火） 午後 2 時から午後 4 時まで
場 所	宮城県行政庁舎 4 階 特別会議室

第 16 回宮城県産業振興審議会 商工業部会 議事録

1 開会

■富県宮城推進室 太田副参事

ただいまから第 16 回宮城県産業振興審議会商工業部会を開会いたします。

2 挨拶

■富県宮城推進室 太田副参事

開会に当たりまして、宮城県経済商工観光部副部長の千坂より御挨拶を申し上げます。

■経済商工観光部 千坂副部長

本日はお忙しい中、宮城県産業振興審議会商工業部会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から、県政運営や産業施策の推進に御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、本日の部会では「第 6 期みやぎ観光戦略プラン」の最終案について御審議いただきます。

今回の最終案は、11 月に開催しました産業振興審議会で頂戴した御意見を踏まえながら、具体的な観光施策の方向性や取組内容等について検討を進めるとともに、「みやぎ観光振興会議」など様々な関係者の皆様からの御意見や、12 月にパブリックコメントを実施し頂戴した御意見を反映させながら作成したところです。

本日は、最終案に関しまして御意見をいただきまして、2 月 4 日の全体会で委員の皆様承認いただき、2 月 10 日には知事に対しまして審議会からの答申をいただくこととしております。

それでは、それぞれのお立場から忌憚のない御意見・御提案を賜りますようお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

■富県宮城推進室 太田副参事

それでは、議事に入る前に、定足数について御報告いたします。

本審議会の定足数は半数以上となっておりますが、本日は委員 6 名に対し、4 名の御出席をいただいておりますので、産業振興審議会条例第 5 条第 2 項の規定に基づき、本日の会議は有効に成立していることを御報告いたします。

次に、会議の公開でございます。本審議会は平成 12 年度の第 1 回目の会議において、公開すると決定しておりますので、今回も公開として進めさせていただきます。

それでは議事に移らせていただきます。

本日の議事は、次第のとおり 1 件となっております。

ここからの議事進行は、産業振興審議会条例の規定に基づき、部会長が議事を進めることとなっております。本日、青木部会長が欠席でありますので、産業振興審議会条例の規定に基づき、事前に部会長より指名のありました、高橋委員に部会長代理をお願いしたいと存じます。それでは、高橋委員、どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

(1)「第6期みやぎ観光戦略プラン」の中間案について

■高橋部会長代理

高橋です。よろしくお願いいたします。

弊社は設備工事会社です。様々な設備工事を扱っていますが、設計仕様書というものがありまして、仕様書を元に工事を行っていきます。設計仕様書がありますと最終的に出来上がるものが明確に分かりますので、専門知識であったり、経験により仕様書以上の物を完成させ提供しています。

今回のプランは、そういった仕様書だと思っております。仕様書は既存の物であったり、ない物を作っていく仕様書でしたりいろいろありますが、その仕様書に基づいて実行していきますので、実行しやすい仕様書を作ることが必要だと思います。夢も必要ですけど、かなり大変な作業に感じております。目的をしっかりとって、実施して繋がるような形でこの審議に全力を尽くしていただきたいと思います。

部会長代理で難しいですけれども委員の皆様よろしくお願いいたします。

それでは、事務局から説明をお願いします。

■観光戦略課 川部課長

観光戦略課の川部でございます。

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

前回の産業振興審議会では、観光戦略プランの中間案をお示しさせていただき、委員の皆様から様々な御意見を頂戴いたしました。その後、県議会での審議、パブリックコメントなどを通して頂戴した意見を踏まえ、今回最終案を作成したところです。頂いた御意見への対応について、後ほど最終案の説明の中で、御説明させていただきます。

はじめに、資料1の1ページ「第6期みやぎ観光戦略プラン策定スケジュール」を御覧ください。

資料中段、産業振興審議会の欄を御覧ください。

本日は、第6期プランの最終案を御議論いただき、頂いた御意見を踏まえ、2月4日に開催する全体会にプランの最終案を諮ります。その後、審議会から県知事宛てに答申をいただき、3月中に決定する流れとなります。

次に、2 ページをお開きください。

最終案については、中間案でいただいた御意見などを踏まえ、取組の方向性を中心に、再度整理しましたので、表現の工夫や、今後取組を進めていく上での具体案などを中心に御意見を伺いたいと思います。また、数値目標の設定についても合わせて御意見をお願いいたします。

次に、資料2を御覧ください。

最終案については、時間も限られておりますので、中間案からの変更点やポイントを絞って説明させていただきます。

資料左、「2 基本理念・目指すべき姿」を御覧ください。

基本理念は、中間案と同様に、「地域が主役となる持続可能な観光地域づくりを通した“All(オール) round(ラウンド)”な観光地の実現」としました。オールラウンドの全体、全員という意味に着目し、「“多種多様な” 方々が集う観光地」、「“オールシーズン” 賑わう観光地」、「宮城県を玄関口に“東北全体”へ誘客拡大」、「観光を核に“地域経済全体”を活性化」、「関係者全員参加型」という5つの観点からオールラウンドな観光地を目指してまいります。

宮城県は、食、温泉、自然などの地域資源が豊かであり、マンガ、アニメ、お祭りなどの観光コンテンツが充実している一方、欧米豪からの認知度が低く、インバウンドの全国シェアが低い状況にあります。観光業の発展が地域経済活性化につながるという思いを持っておりますので、官民連携で誘客拡大、周遊促進に向けた施策を展開し、幅広い年代、国内外から選ばれる観光地づくりを進めたいと考えております。

次に、右側の「3 数値目標」を御覧ください。

数値目標のうち、圏域ごとの宿泊者数については、圏域会議で御議論いただいたところで。今回、その他の指標についても数値目標を設定させていただきましたので、後ほど資料4により御説明させていただきます。

次に、2 ページを御覧ください。

左下の「6 観光戦略プロジェクト」を御覧ください。

施策の柱となる戦略については、4つの戦略に基づき、取組を推進してまいります。

次に、右側の「7 取組の方向性」を御覧ください。

中間案でいただいた御意見に対する反映状況を中心に、御説明いたします。

はじめに、ピンク色の「戦略1 魅力ある観光資源の創出」でございます。

宮城県への誘客促進に向けては、宮城県に行かないと経験できない宮城ならではの観光コンテンツの造成が重要であると考えております。中間案の議論では、「食は、インバウンドの誘客を促進するうえで、重要なコンテンツとなる。宮城の食に携わる人やストーリーを意識して欲しい。」との御意見をいただきました。各地の多様な食、食文化に焦点を当て、宮城の「食」を体感するために、宮城県を訪れたいと思ってもらえるようなコンテンツ造成を目指してまいります。

次に、青色の「戦略2 観光産業の活性化」でございます。

中間案では、「省人化は、観光業の売りであるおもてなしとのバランスが重要。人材確保の面では、雇用後の定着やスキルアップに向けた支援も重要」との御意見をいただきました。

人手不足対策として、デジタル技術の活用の観点から、省人化・省力化設備の導入促進などに取り組むとともに、おもてなしの主体となる従業員の定着促進や、スキルアップ支援に取り組んでまいります。

次に、紫色の「戦略3 観光客受入環境整備の充実」でございます。

中間案では、(5) 交通アクセスの充実について、「インバウンドは、車を利用して旅行するのが主流。レンタカーや乗合タクシーをいかに利用してもらうかという視点が重要。」との御意見をいただきました。県としても、レンタカーの利用促進や、シャトルバスの運行支援などを通して、観光地への移動手段の確保に努めてまいります。

次に、茶色の「戦略4 国内外との交流拡大の促進」でございます。

中間案では、「海外からの観光客が最も目にする空港や海外の商業施設で宮城県のプロモーションを行うなど、積極的な発信が必要。」といった御意見をいただきました。

宮城県は欧米豪からの認知度が低い状況にあるため、宮城県の認知度向上に向け、東北観光推進機構や東北各県と連携したプロモーションを推進してまいります。また、海外との双方向の交流拡大の観点から、教育旅行を切り口として、県内学校の海外教育旅行を推進するなど、ツーウェイツーリズムを推進してまいります。

以上が、6期プランの概要になります。

次に、資料4を御覧ください。

第6期プランの数値目標の考え方を御説明いたします。

左上の表を御覧ください。

今回、4つの数値目標を掲げ、それぞれ「1の宿泊観光客数」については、圏域毎の数値目標を積み上げ、1,104万人泊、「2の外国人観光客宿泊者数」は、120万人泊、「3の観光消費額」は、6,000億円、そして「4の観光消費額単価」は、日本人が3万3千円、外国人が9万円と設定しました。圏域ごとの数値目標については、宿泊施設の開業、教育旅行の増加傾向、道の駅の開業等による観光客入込数の増加などの要因を踏まえ、市町村計画の目標値との整合性を図りながら定めたものです。

左下、「2 各数値目標の設定方法」を御覧ください。

直近の宿泊者数の状況ですが、昨年10月までの宿泊者数は、対令和5年比で約97%となっており、内訳として、インバウンドが150%と、好調である一方、日本人が約95%と伸びが鈍化している状況です。要因としては、令和5年は、1月から9月まで実施した全国旅行支援や、市町村独自の宿泊割引キャンペーンの実施などにより、宿泊者数を下支えした効果があったことに加え、令和6年は北陸応援割の実施により、北陸4県の宿泊者数が大幅に増加していることから、宮城県における日本人の宿泊者数が伸び悩んでいるものと考えております。

次に、客室数と客室稼働率の長期的なトレンドを御説明いたします。

客室数についてはほぼ横ばいで推移している一方、客室稼働率については、長期的に減少傾向にあります。

次に、右上の「(1) 宿泊観光客数」を御覧ください。

先ほど申し上げました客室数と稼働率の推移を踏まえ、今後の宿泊者数を試算すると、青い棒グラフのとおり、令和9年には892万人泊まで減少します。

今回、圏域毎の目標値を積み上げた結果が、令和9年に1,104万人泊となりますので、令和7年以降は、年率で約6%ずつの伸びが必要となります。

次期プラン期間中に、宿泊税の導入が開始となりますので、既存財源と組み合わせ、効果的な施策を展開して目標値達成に向け取り組んでまいります。

次に、(2) 外国人観光客宿泊者数については、直近の伸び率を基に、令和9年に120万人泊を目指します。インバウンドの全国シェアは、宮城県が0.5%、東北全体でも1.5%と低い状況にあるため、各県と連携したプロモーション活動や、海外市場ごとの特性を踏まえたコンテンツ造成などが誘客の鍵となります。これらの取組を通して、県内宿泊日数の増加や、新規市場開拓により、目標値達成を目指します。

一番下(4) 観光消費額単価を御覧ください。

消費額単価は、令和5年の1.25倍となる、日本人3万3千円、外国人9万円を目指します。みやぎ観光振興会議の議論では、「単価の数値目標については、昨今の物価上昇を踏まえ、もっと高く設定した方が良い。」などの御意見を伺いました。そのため、宿泊数の増加といった政策的な視点と物価上昇の外的要因の2つの観点から数値目標を検討しました。

上段の(3) 観光消費額については、過去最高だった令和元年の約1.5倍となる約6千億円の達成を目指し、観光業をはじめとした地域経済活性化につなげたいと考えております。

以上が、最終案の説明になります。

新たなプランに基づき、数値目標の達成に向け、実効性のある取組を進めてまいりたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

私からの説明は以上でございます。

■高橋部会長代理

ありがとうございました。

皆様からの御質問、御意見を伺う前に私の方から確認したいことがあります。

目標数値の中で何人泊という表現がありますが、こちらは宿泊しないとカウントされないという理解でよろしいでしょうか。宿泊しない観光客(日帰り客)のカウントをする目標値があってもいいと思いますがいかがでしょうか。

■観光戦略課 川部課長

目標値につきましては、宿泊観光客数と外国人観光客宿泊数は宿泊していただいた数値となります。これとは別に資料3のプラン本体の60ページに記載しておりますが、成果指標として別の数値を設定しております。

観光客の動向につきましては、必ずしも宿泊した方だけではありませんので、様々な観点からの数値を活用しながら、宮城県の観光を捉えて、把握していきたいと考えております。

■高橋部会長代理

ありがとうございます。

委員の皆様からの御質問や御意見がございましたらお願いします。

■関委員

関と申します。よろしくお願いします。

最終案ですので、大きな変更は難しいと思いますが、少し意見を話させていただきます。

つい先日、東北大学の地域イノベーションプロデューサー塾の卒塾発表会がありました。多様な北海道、東北からの事業者が集まって、3年以内に事業化するプランを発表したのですが、今期実習の中で宮城県の観光戦略プランのことを参加者に説明させていただきました。それを受けてなのか、元々課題に思っていたのか、多様な業界の方が観光に関するプランを発表しておりました。建設業者、食品メーカー、出版業、清掃業の方もおりました。インバウンド、観光客を増やすということから、観光地を下支えするというプランを含めて、例年になく観光に関するプランが多かったと思います。

All-round な関係者全員参加型というところで、観光事業者という表現があるのですが、実は観光に関わりたいという人たちが増えているように感じられます。新規参入も含めて多様な事業者が観光に関わるというのが、本当の All-round だと思います。新規参入で活性化するところもあると思いますし、観光事業者に紐づく事業者が観光目線でほかの事業者とプランニングしていくということがすごく大きな取組になると思います。その表現を観光事業者と限定してしまうと、今までの関係者でクローズしてしまうように感じるので、せつかく1番目に多種多様な方々が集うという表現を使っているのも、関わる側ももう少し開いた表現としたほうがいいと思います。東北大学の地域イノベーションプロデューサー塾は各地域で地域の魅力を掘り下げて拠点を作りますというようなプランが多かったもので、実現可能性を考えると、その土地で長く商売をしてきた人が観光の分野に参入するのは現実的だと思います。観光事業者だけになってしまうとクローズドな感じになってしまうので、宮城県に事業所がある事業者みなさんが関わるものと表現したほうがいいと感じました。表現の工夫をお願いしたいと思います。

■高橋部会長代理

ありがとうございます。

All-round でいろんな方が参加したいと思ったときに、観光事業者と表現されていると、参加しづらいと思いますので、All-round の関係者だということを明確に表現として変えたほうが良いと思います。検討よろしくお願いします。

■観光戦略課 川部課長

御意見ありがとうございます。

我々の中ではもちろんそういった方も含めて考えておりますが、文字で見るとそう見えないということですので、最終案では、表現について検討したいと思います。

私も先日、県内に移住された海外の方とお話する機会がありましたが、こういった方も宮城県の観光を盛り上げていこうと考えている方が多くいました。そういった方々の御意見も取り入れられるような書きぶりを検討していきたいと思います。

■高橋部会長代理

検討よろしくお願いします。

ほかにございますでしょうか。

■笠間委員

質問というよりはナレッジ支援みたいな話ですが、先週、宮城産業振興機構さんの仕事で仙台市にある銅製品を扱う会社のパリでの展示会のサポートのため、2週間パリに行っておりました。そこで宮城県にも必要だと思った感想となってしまいますが、資料2の2枚目に取り組みの方向性の戦略1になります、(2)にガストロノミーツーリズムがあります。ガストロノミーツーリズムって本当に大事だなと思ったのが、パリで休日が1日しかなかったのですが、パリから300kmくらい、東京から仙台に行くくらいの距離にロアール地方があるからワインを見に行くかなと思いました。私たちはロアール地方やアルザス地方って名前を知っていて、フランスにせっかく来たから、ちょっと離れているから行ってみようかなと思うわけです。これは地域ブランディングの話ですし、それを我々が知っているのは、ワインが宮城県でも売られているからだと思います。

観光戦略プランの外側の話となってしまいますが、今後欧米から観光客に来ていただくことにも重点化していくためには、受け入れた時に上手くいくかということもありますが、商品とかそういった攻めの商品がヨーロッパにあって、日本の北東部にはこういった食があるんだなとヨーロッパの売り場にある状態にしておくと、観光で人を呼び込むに必要なことだと思いました。そういった物があるからこそ、美味しい食を食べに東京ではなく、京都や大阪のゴールデンルートでもなくて、遠い北海道でもなく、東北地方に行ってみようかという気分になると思います。

観光戦略プランの外側にも観光のために動かなければいけないことがあるので、ぜひと

も県産品をヨーロッパ等でブランディングするような考えがあってもいいと思いました。

現地でカルフルシティとかのスーパーに行き、自炊しながら滞在していたのですが、けっこう冷凍食品で日本食が置いてありましたが、製造はほとんどが中国でした。寿司や焼き鳥、ラーメンもありましたが、中国製で味も美味しいと思いませんでした。水産加工物を含めて、中国製が多かったです。価格もそこそこの高い金額で販売しておりました。カルフルシティは、現地でもそこまで所得の高い方々が行く場所ではないのですが、けっこう高い金額で販売しておりました。宮城県でも水産加工を含めて、コールドチェーンで冷凍のものをシンガポール経由で世界に輸出する流れができていますので、県産品を輸出していくことで、美味しい寿司の加工品の製造地が「宮城県」だと現地の人に認知してもらえるように輸出品にしてもブランディングをしっかりしていく必要があると思います。当然、ボン・マルシェのような百貨店に行くと、ジャパニーズウィスキーのコーナーがあり、竹鶴より宮城峡のほうが高い値段で販売されています。宮城峡って「宮城」という名前が付してあるので、ここだって分かります。県産品のブランディングと合わせて観光を盛り上げていけるといいと感じました。パリからの報告のような感じでした。以上です。

■高橋部会長代理

ありがとうございました。

今の県産品の輸出について続けて私から意見を言わせていただきます。

県の特色ある県産品ですが、例えば、日本酒やほかの食材にしても、これから輸出を強化していくのは難しいところもあります。輸出していくのであれば、商品を絞って、本当に良い商品を打ち出していくのがいいと思います。

また、思考を変えて、日本酒の話になりますが、県内の企業に自分達のブランドとして、OEM 的なお酒を出せるような仕組みを作ったら面白いと思っています。例えば、うちは産電工業と言いますので、「さんでん」というお酒を出していくという感じです。県内の企業がみんな自分達のお酒を出したら、宮城県にはたくさんの企業のお酒があるというように面白い取組になるのかと思いました。

私の会社はライブハウスも経営しておりますが、一般的に有名なアーティストが来るとファンの方が日本全国から、海外からも見にいらっしゃいます。ただ、アーティストを呼ぶのが大変だということで、アーティストがコンサートを行う時間以外にアーティストが楽しく遊べる場所を作っています。裏舞台みたいなものを作っていて、テレビでも取り上げられましたが、アーティストが楽しく遊べるので、またここでライブを行いたいと思ってもらえる場所づくりをしています。そうすると自然とお客さんも付いてきますので、お酒の話や地域のブランドの話もですが、思考を変えてやることによって、県内外からお客さんを呼べるのではないかと思います。

今回の観光プランの中では難しいと思いますが、そういったことができる仕組みを考えても面白いと思いますので検討していただければと思います。

ほかに何かございますか。

■佐藤委員

佐藤です。よろしくお願いします。

すごく抽象的な話になってしまいますが、2023年に盛岡市がニューヨークタイムズに取り上げられて、昨年のインバウンドの経済効果が98億4500万円という数字が上がっております。知名度が本当に上がったように思います。今年は富山が取り上げられたということで、盛岡、富山もこれといって観光のキラーコンテンツがあるわけではないですが、ニューヨークタイムズに取り上げられました。どうしてかなと考えてみると、おもてなしの心って漠然としているのですが、市民の皆さんが観光客に対してとても親切で、お店に入ったら、次のおすすめのお店を紹介したりと県民性なのでしょうか、そういったことが自然と身についているということと、両方とも歴史をすごく重要にしております。前に取り上げられた福岡市も屋台文化をずっと守っています。そういったものが外国人の方には人気で、ニューヨークタイムズで取り上げられ、すごい効果を生んでいるのだと思います。

仙台市も大河ドラマの候補地に挙がったということを聞きましたので、何か1つターゲットを決めて、時間を掛けて、育てていくという姿勢も必要なのではないかと思います。

以前、緑水亭の高橋委員がおっしゃっていましたが、秋保地区も昔は住民と温泉街の距離があったが、長年時間を掛けて話し合っ、その状況を打破していったとありましたので、時間を掛けて、宮城県の観光はこれですというものを育てていくことは必要なのではないかと思いました。

最終案の資料2の2ページの取組の方向性の中で、宮城の食や自然というところの中に、宮城県の歴史があると思います。伝統的な料理とかそういったものを広めていくということも取り入れていただけたらいいと思います。

■高橋部会長代理

ありがとうございます。事務局からいかがでしょうか。

■観光戦略課 川部課長

ありがとうございました。

おもてなしの心につきましては、戦略3の(7)のところでも少し入れさせていただいております。

何気ないものがキラーコンテンツに生まれ変わるということも当然あると思います。我々としては、宮城県の歴史的なコンテンツを大事にしながら、育てていくということも必要だと思います。

今、いただいた意見については、表現の工夫も含めて検討させていただきたいと思います。資料2の概要版では書き切れない部分もありますので、御指摘のありました箇所につい

では、プランの本文内に記載できないか、検討させていただきたいと思います。

■高橋部会長代理

よろしくお願いします。

ほかに何かございますか。

■関委員

今日の議論のポイントをいただいておりますので、取組の方向性についてです。

プランに記載していただきたいということではないです。

最近、支援専門機関の方やお土産を売っている販売店側の方々と話をしていると、販売店側としては宮城県にしかない物がなければ、お客様に積極的におすすめする物がないので、売上が上がらないという話がありました。結局、どこの都市で買っても同じような物になってしまうのでは、駅前の大手ドラックストア等で買ってしまい、地元事業者が潤うサイクルが回りづらいと商店街の方との話で出ております。販売店側も宮城県に来たならお客様におすすめする物を求めています。特にインバウンドの方向けの商品をバイヤーに探して欲しいと話をしているようです。

全体的に今回の観光戦略プランは、コト消費などの目に見えないサービスを観光資源として捉えており、仕組みや流れを作りましょうという内容になっています。以前の観光戦略プランではもう少し県内の物産品にも着目して書いていたように感じます。

海外に出張に行った方が、真田広之さんの映画がゴールデングローブ賞を受賞した際に、宮城県には伊達政宗がいるじゃないかと言われたということで、侍ブームを肌で感じたようです。あとは、ヨーロッパの企業や商品を視察すると、アップサイクルとか環境問題に本当に真摯に取り組んでいます。原材料も土に返る物を使っていたり、環境問題に敏感なお国柄だと思います。ただ売れるから開発するのではなく、地域の資源を磨き上げて商品にすると、時間もお金もかかると思います。本気で観光消費額を上げていくとなると、何かしらお土産を買ってもらうことや、人を呼ぶための物産品の開発やブラッシュアップの促進が必要なのではないかと思います。魅力向上した先に、観光に来てもらい、お土産を買って帰ってもらうということがあるので、ワンステップ先に観光消費額が上がるという現象があると思います。プランに記載せよということではないですが、コト・イミ消費に傾きすぎないようにしていき、製造業の方達にもこういったモノを作れば売れる、地域の特産を使ってもらおうとなりますので、モノに着目した部分もあってもいいのではないかと思います。観光資源には自然などがありますが、観光客が自国に持って帰れて、影響を与え続けるのはモノなのかと思いますので、宮城県の良かった記憶を持ち帰っていただくような戦略を今回または次回の観光戦略プランに入れていただけるといいのかなと思いました。

■高橋部会長代理

ありがとうございました。

実は工業製品ですと、県には「みやぎ優れ MONO」の委員会の意見を聞きながら様々な物を作っています。宮城県ならではの工業製品とかたくさん作っています。県でも様々な支援をしていまして上手くやっているとっていますが、それが観光に繋がるのかということそうではないです。どうやって売るのがかなどは確立していないかもしれないです。玉虫塗のボールペンなどをもっと観光に繋がるように、宮城県ならではのすよとPRしていくことが必要だと関委員の話を聞いて思いました。部分的に行っている取組をもっと横を繋げていくような仕組みが必要なのかと思っております。

■経済商工観光部 千坂副部長

御意見ありがとうございます。

御指摘いただいたように、たしかに今回の観光戦略プランは観光地域づくりをメインにしております。そういった意味では観光客の方に来ていただくということに力点を置いている状況です。一方で農林水産業では6次化と言っておりますけれども、観光についても裾野が広く、6次化産業の部分では食材という一次産業の部分があり、高橋部会長代理からもありました工業用品のこともあり、お土産であったり、ガストロノミーツーリズムだったり、笠間委員からありました、海外での宮城県産品を見ることができて、宮城県に繋がるということであったり、多層的な取組が観光にも必要かなと思っております。そういった取組の部分が書き切れなかったと思っております。表現として、直接的な人や観光サービスや広い意味での観光に関するサービスについて取り組んでいくということを少し工夫していきたいと思えます。

■高橋部会長代理

横の繋がりと表現しましたが、上手くいくように検討していただきたいと思えます。

ほかに御意見ありますでしょうか。

■笠間委員

また情報提供のような話になりますが、もう1点話をさせていただきます。

パリは世界有数の観光都市ですけど、正直インフラなどはかなり日本に劣ると感じます。治安も良くないです。私もパスケースを現地で落としてしまい、運転免許証と会社のクレジットカードが入っていましたが、落としてすぐにクレジットカードを不正使用されてしまいました。外国人が物を無くした際の処理はとても大変です。弊社のメンバーが以前パリでスマホを無くしたことがあるのですが、警察署で4時間待たされて、結局はWEBで手続きをしてって言われただけで何も解決しなかったことがありました。今回は調べて、そういった被害があった時にオンラインで申請できるものがあることが分かりました。被害の内容などをオンラインで申告していくので、翻訳ソフトを使えば、英語でも大丈夫です。それ

を使って警察署の窓口に行くとすんなり手続きが完了しました。インフラは微妙なんですけど、トラブルにあった際は案外手厚く処理してくれる仕組みがあるんだなと思いました。観光都市であり、インフラが古くて使えないからこそ、そういった仕組みが発達しているのだなと思いました。同じように日本や宮城でトラブルにあった時に外国の方は不安になると思います。そういったことを救うセーフティーネットのようなものを用意するのか、すでにあるのであればしっかり周知してあげることが大事になると思います。フランスだとパリ周辺の警察署ですと、英語やアジア系の言語も話せる職員がいますという話もありました。県内全ては難しいと思いますが、仙台市には困ったらここに行くといいよという場所があればいいと思います。セーフティーネットも観光を考えている上で重要になるのかなと身に染みて思いました。インバウンドがほかの地域に比べて少ないので、そういった問題が顕在化していないのかもしれませんが、第6期観光戦略プランの後の第7期の時にはそういった問題も出てくると思います。何かトラブルになってしまった際に、ホットデスクなのかセーフティーネットなのか、そういった話も将来的な課題に出てくるといったところです。

■高橋部会長代理

トラブルレスキューは大切な取組だと思います。コロナ禍の時に県でそういったソフトを作り、かなり役に立ったと実感しましたので、観光でもトラブルにあった人が使えるものを次のステップの際には考えても良いのではないのでしょうか。いかがでしょうか。

■観光戦略課 川部課長

御意見ありがとうございます。

今の御意見にすぐにお答えすることはできませんが、今後、外国人観光客宿泊数を令和9年に120万人泊まで目指す中で、当然外国人観光客が増えれば問題になると思いますので、第7期プランではなく、第6期の途中でも対応できるように柔軟に対応していきたいと思います。現行のプランの中で、資料3本体の35ページのところに災害時の対応ということで、外国人向けのアプリを国で用意しております。こういったものを活用していただきながら、緊急時に速やかに対応していただけるように、普及を県でも進めていければと考えております。フェーズごとに対応が必要になると思いますが、今いただいた意見を含め、今後は外国人向けのサービスも考えていきたいと思っています。

■高橋部会長代理

ほかにありますでしょうか。

■佐藤委員

少しお伺いしたいことがあります。戦略プラン②の課題のところの課題の③ですが、県民の満足度が低いとなっています。アンケートの結果だと思いますが、満足度が低い原因を分

析しているのでしょうか。

■観光戦略課 川部課長

こちらのデータはダイジェスト版となっており、詳細は後ほど委員の皆様へ資料としてお送りいたします。

■佐藤委員

ありがとうございます。

郷土愛という話があった時に、宮城県は郷土愛が低いとよく話題になります。

そういったところが数字に出てくるのか、それとも県民の満足度を感じるところが他県より高いのか気になりましたので、質問させていただきました。

■観光戦略課 川部課長

現行の観光戦略プランの中でもシビックプライドの醸成ということを入れております。地元の人が宮城県の良さをよく分かっていないですとか、伝えることが上手くないですとかあります。アンケートの中身については、紐解いて御紹介させていただきます。

■高橋部会長代理

ほかにございますか。

■笠間委員

今のおもてなしに関することに繋がるのですが、仙台市からの委託事業で、仙台在住の仙台人がおすすめする飲食店マップの編纂をしています。ホテルに行くと、近場おすすめマップというのがあって、サブタイトルが仙台地元ホテルマン一押しとなっており、ホテルで使うことを目的に作っています。ホテルマンの人がおすすめしたいバーとかが載っていて、今とても人気が出ています。観光マップを今時は使わないのかなと思っていましたが、それは現場でも説明がしやすいので人気があるようです。外国人の方って紙媒体のものを持っていくという習慣がないのですが、どんどん持っていくようです。それに気をよくした仙台市が在仙の人が台湾の人におすすめしたいところを繁体字できちんと説明できるものを作ろうとしています。ホテルの人や仙台に住んでいる台湾の人が、おもてなしの心を醸成していくだけだと難しいと思いますが、自分事としておすすめを載せていくと頑張るようになります。アイデアになりますが、おもてなしということを戦略の中に入れるのであれば、何か面白い具体的なプロジェクトをやってみるというのもありではないでしょうか。例えば、気仙沼の人がおすすめしたい〇〇マップや料理集みたいな県民が参画できる仕組みがあると、自ずとおもてなしの心が出来ていくのではないかと思います。

■高橋部会長代理

ありがとうございました。

そろそろ時間にもなってきました。ここで言えなかった御意見がありましたら、メールで事務局までお送りいただければと思います。

あと、先ほどのアンケートの回答についてもお送りいただきたいと思います。

■観光戦略課 川部課長

簡単にデータをまとめまして、後ほどお送りいたしますので、よろしくお願いいたします。

■高橋部会長代理

よろしくお願いします。

本日は皆様の方から貴重なご意見等ありがとうございました。本日の審議を踏まえまして、次回の来週火曜日に全体会で審議することとなりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上を持ちまして審議を終了します。

進行を事務局にお返しします。

■富県宮城推進室 太田副参事

高橋部会長代理、ありがとうございました。

それでは、次第の「その他」でございます。事務局からは特にございませんが、全体を通して皆様から何かございますでしょうか。特にないようですので、以上をもちまして第16回宮城県産業振興審議会商工業部会を閉会とさせていただきます。

なお、次回の全体会につきましては2月4日に開催予定ですのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。